

【活動報告書】

和歌山まちなかシルクロード構想実行委員会

(和歌山市中心市街地の活性化を目指し結集したステイクホルダーによる任意団体)

～市民目線のウォークブル×スマート×SDGsシティ化推進を目指して～

2021年12月

組織概要

組織名称 :和歌山まちなかシルクロード構想 実行委員会(2020年6月10日発足)

<参加団体・企業 ※50音順>

①商店街

アロチ商店街、北ぶらくり丁商店街協同組合、市駅前中央商栄会、JR和歌山駅前商店街、城北まちづくりの会、みその商店街協同組合、東ぶらくり丁商店街、本町商店街、

②企業・学校

株式会社KEGキャリア・アカデミー、株式会社信濃路、和歌山コンピュータビジネス専門学校、和歌山大学、和島興産株式会社

実行委員長 :野口 千恵

スポンサー:足立 基浩(和歌山大学 副学長/経済学部教授)

<実行委員 ※50音順>

縣 克伸(アロチ商店街 理事長)

石垣 泰伸(みその商店街協同組合 理事長))

梅田 千景(和島興産株式会社)

加藤 正祐(JR和歌山駅前商店街 理事長)

木村 隆子(アロチ商店街 副理事長))

桑島 秀樹(北ぶらくり丁商店街協同組合 理事長)

垂井 一(市駅前中央商栄会 会長)

西平 都紀子(株式会社信濃路 代表取締役)

西廣 真治(アロチ商店街 専務理事)

日高 亜季(和歌山コンピュータビジネス専門学校 副校長)

古田 高士(株式会社和み 代表取締役)

<協力企業・店舗 ※50音順>

株式会社アシテック・オコ

株式会社JTB

株式会社積水ハウス阪和支店

株式会社 フーズファイル

ぶらくり丁カレーBiBo

和島興産株式会社

<事務局>

株式会社紀泉ふるさと創研

活動の趣旨

- JR和歌山駅から南海和歌山市駅までの各拠点の「人・モノ・コト」をつなげてひとつの文化圏をつくり、片道徒歩40分の距離を「歩きたくなるストリート」にすること、JR和歌山駅圏と南海和歌山市駅圏の関係を「分断」から「連動」に変えることを目的とします。
- また、人口が多い大阪市や堺市の市民、コロナ後のインバウンド観光客が来たくなるような街づくりを推進します。
- 「すべての商店街が活性化すれば和歌山市は若者が住みたい街になる」という基本理念で本プロジェクトを推進します。
- 和歌山まちなかシルクロード構想は、国連において全会一致で採択されたSDGs(持続可能な開発目標)を推進するものです。
「目標 11:住み続けられるまちづくりを」はもちろん、「目標 4: 質の高い教育をみんなに」「目標 17:パートナーシップで目標を達成しよう」にも貢献するよう取り組みます。

活動報告

①和歌山まちなかシルクロード構想実行委員会第1回会議

日時：2021年6月10日(木) 10:30~12:00

場所：パルファンビル地下オープンスペース

参加者：計19名/50音順/敬称略

【商店街】

アロチ商店街理事長 縣克伸、副理事長 木村隆子、専務理事 西廣真治

北ぶらくり丁商店街協同組合理事長 桑島秀樹

市駅前中央商栄会会長 垂井一

みその商店街協同組合理事長 石垣泰伸

【まちづくり会社】

株式会社紀州まちづくり舎代表取締役 吉川誠人、株式会社sasquatch代表取締役 小川貴央

一般財団法人和歌山まちづくり財団評議員 島英雄、株式会社ワカヤマヤモリ舎代表取締役 宮原崇

【学校】

和歌山コンピュータビジネス専門学校校長代理 日高亜季、進路指導部 谷本翔太

和歌山大学 副学長/経済学部教授 足立基浩

【福祉】

介護センターピース&ピース 西原隼登、池田のりひこ

【行政】

和歌山県循環型社会推進課主査 恩賀承子、和歌山県商店街振興連合会事務局長 楠林正至

和歌山市都市再生課 中村英人

【オブザーバー】 小川達也(株お元気さん) 小笠原浩一(落語家)

【事務局】 野口千恵(株式会社紀泉ふるさと創研)



活動報告

②和歌山七夕大作戦 コロナウィルス感染症対策として密にならないイベントを観光地と同時に企画

2020年7月7日実施。

和歌山七夕大作戦(シルクロード構想実行委員会、観光地 和歌浦地区、加太地区を中心に賛同者47名が清掃活動を実施。

終了後には七夕らしい風情を演出しようと笹の飾りつけで道行く人の目を楽しませながら、活動をアピールしました。



③日本初SDGSロード宣言と一斉清掃&打ち水

2021日8月8日、商店街で午後2時から一斉清掃活動と打ち水を行いました。清掃活動は、県民や事業者の自主的な清掃活動を応援するという県の「わかやま『ごみゼロ活動』」の認定も受けており、当日の清掃活動には県の循環型社会推進課も参加してくれました。

打ち水のあと、「和歌山まちなかシルクロード構想」に賛同する商店街や企業が北ぶらくり丁商店街に集結し、和歌山市を「健康的でウォーカブルな(居心地がよく歩きたくなる)まち」とすべく「和歌山まちなかSDGsロード宣言」を行いました。

(日刊) わかやま新報 (2021. 8. 11)

(平成33年7月19日撮影提供)



まちづくりへ意気込む実行委メンバー

「歩いて楽しい」通りに

商店街結ぶ まちなかSDGsロード宣言

【和歌山】南海和歌山市駅からJR和歌山駅までを、魅力ある通りにしよと「和歌山まちなかシルクロード構想実行委員会」が発足。エリア内の商店街や飲食店関係者が手を取り合い、「歩きたくなる」まちづくりを目指す。国連が掲げるSDGs(持続可能な開発目標)をテーマにしたイベントや活動を予定しており、8日には北ぶらくり丁、アロチ、みその商店街で同時刻に清掃活動と打ち水を展開。「まちなかSDGsロード宣言」を行った。

実行委は商店街の店主や経営者、大学教授ら約50人で構成。南海和歌山市駅からJR和歌山駅まで徒歩で40分の距離であることに着目し、人やモノ、コトを結び付け、個別に取り組むのではなく手を携えたまちづくりを進めること。



高校生記者が取材した和歌山市の魅力も紹介

相乗効果や人流の創り上げていきた出を目標とする。今後は地元の大生からアイデアを募りながら、活性化につなげたいという。8日、北ぶらくり丁で行われたSDGs宣言では、実行委のメンバーで、和歌山大学、和歌山大学の副学長、市を、歩いて楽しい足立憲徳さんが「健康的な商店街がなくなっているのをおかしい」と期待を寄せた。実行委の清掃活動若い学生たちを巻き込んで、このまちを「ごみゼロ活動」に

来賓の尾花啓市氏は、数年前から市内への流入人口が増加していることに、若い世代を巻き込むチャンスを、皆さんの活動を積極的に推進していくことは大事なこと、和歌山を、歩いて楽しい足立憲徳さんが「健康的な商店街がなくなっているのをおかしい」と期待を寄せた。実行委の清掃活動若い学生たちを巻き込んで、このまちを「ごみゼロ活動」に

定され、認定証も交付された。この他、実行委代表の野口秋には大学生や専門士らも自分たち学校生を対象に、まちのまちを自分たちで再生をテーマに、という思いを込めて「おもしろい」活動を持ちたいという「コンテスト」を打ち出す。5月20日、この発表、会場でも若い世代と一緒に初めに開かれた「和歌山SDGs宣言」の開催に「SDGs達成の国わかやま」として、SDGs達成の国わかやまとして、期間である2030年の新目標部門で、高校生までに、次の世代が生記が取材した和歌山を「まちでなければ」と感じられる新聞が発表されている。

アロチ活性化委など 県ゴミゼロ活動で3団体認定

県は、自主的な清掃活動を「わかやまごみゼロ活動」と認定する取り組みについて、県内3団体を第1号に認定したと発表した。

同制度の目的は、県民や県内事業者の自主的な清掃活動の取り組みを促進すること。県は認定者の活動内容を県のホームページなどで紹介する。認定した団体は笑好会、アロチ活性化委員会、和歌山アースデイ実行委員会。

笑好会は老人クラブで、和歌山市の川永や紀伊などの地区

第1号に認定した団体は、笑好会、アロチ活性化委員会、和歌山アースデイ実行委員会。この3団体は、自主的な清掃活動の取り組みを促進すること。県は認定者の活動内容を県のホームページなどで紹介する。認定した団体は笑好会、アロチ活性化委員会、和歌山アースデイ実行委員会。

アロチ活性化委員会

認定された「アロチ活性化委員会」

車に汚れたアロチ活性化委など

活動報告

④和歌山まちなか学生ビジネスプランコンテスト開催

10月9日(土) 14:00～ パルファンビル地下オープンスペース

7校が最終選考参加

審査員:30名(各自持ち点25点×30名=合計750点)



J:COM「つながるNEWS」から転載

募集要項

SDDGsの達成目標である2030年に次世代へのバトンタッチができるよう「自分の街の未来は自分たちの手で創る」をテーマに学生のビジネスアイデアを募集。

◇目的・趣旨

和歌山市中心部では高齢化・人口減少が進行し、さらに新型コロナウイルスの影響もあって空き店舗が増えています。市の中心部の空洞化は市全体の財政やインフラ維持など未来に悪影響を与えてしまいます。そこで、これからの和歌山市を担う学生の皆さんからの「アイデア」や「活動」の提案を募集しました。SDDGsの達成目標である2030年に次世代へのバトンタッチができるよう、「自分の街の未来は自分たちの手で創る」をテーマに募集したところ27チームがエントリーし、7校が最終選考に残り最終審査しました。最終審査の結果は以下の通りです。

第1位グランプリ

(同点で1位が2チームとなりました)

・和歌山大学Cチーム 539点

- ①歩きたくなるまちづくりに貢献するか 108点
- ②地域貢献性 111点
- ③独創性 85点
- ④実現性 98点
- ⑤熱意 137点

・和歌山コンピュータービジネス専門学校 539点

- ①歩きたくなるまちづくりに貢献するか 83点
- ②地域貢献性 135点
- ③独創性 141点
- ④実現性 97点
- ⑤熱意 83点

下記のチームは金賞

慶風高校、和歌山大学Aチーム、
和歌山大学Bチーム、楠見小学校

評価基準

- ①歩きたくなるまちづくりに貢献するか 5点
 - ・和歌山市中心市街地の一体性を促進するか
 - ・空き家や空き店舗の解消に貢献するか
- ②地域貢献性 5点
 - ・地域の経済利益、雇用、資源の有効活用を促すアイデアとなっているか
 - ・地域の様々なプレイヤーと有効な連携を図ろうとしているか
- ③独創性 5点
 - ・これまでにない新しい取り組みであるか
 - ・ニュース性の高い取り組みであるか
- ④実現性 5点
 - ・事業計画が現実的な想定のもと組み立てられ、実現性が高いか
 - ・事業の展開に合わせて取組むべきことが明確になっているか
- ⑤熱意 5点
 - ・事業主体に、事業をやり遂げる固い決意が備わっているか

活動報告

⑤和歌山まちなか学生ビジネスプランコンテスト表彰式

2021年11月24日 和歌山城ホール1階展示室

「青潮書道会特別展～紀州を彩った先人達」のコラボレーション企画として、和歌山まちなかシルクロード構想実行委員会主催「学生ビジネスアイデアコンテスト」の表彰式を開催。青潮書道会様は、和歌山が生んだ偉人たちの言葉を学ぶ場を提供し、そして和歌山の学生たちが和歌山に誇りを持って欲しいという願いをもって、「特別展～紀州を彩った先人達」を企画。そこへタイミングよく、和歌山市学生を対象に、和歌山市の未来を創るビジネスアイデアコンテストがあることを知り、この特別展こそ表彰式を行う場にふさわしいのではないかと考えてくださり、このコラボに至りました。



青潮書道会特別展 テープカット



受賞した各チームの代表者が市長および委員長と記念撮影

活動報告

今回のビジネスアイデアコンテストには、大学生、専門学校生、高校生が貴重な時間を使って調査・企画会議を重ねてアイデアを練ってくれた力作が集まりました。表彰式ではそれぞれの提案書も展示し、企画内容を象徴する一文字を書家の松村博峰先生がその場で賞状に揮毫してくださいました。

また、和歌山市の未来をになう小学生の皆さんに「私たちが住みたいまち」をテーマにした絵を募集したところ、和歌山市立楠見小学校の生徒の皆さんから、楽しくてカラフルなまちの絵がたくさん届きました。



委員会を代表して梅田千景委員(和島興産株式会社 代表取締役)が挨拶



書家の松村博峰先生がその場で賞状に揮毫

受賞各チーム

1. グランプリ 和歌山コンピュータビジネス専門学校
プレゼンター 市駅前商店街 垂井一理事長
2. グランプリ 和歌山大学Cチーム
プレゼンター JR駅前商店街 加藤正祐理事長
3. 金賞 私立慶風高等学校
プレゼンター みその商店街協同組合 石垣泰伸理事長
4. 金賞 和歌山大学Aチーム
プレゼンター アロチ商店街 縣克伸理事長
5. 金賞 和歌山大学Bチーム
プレゼンター 北ぶらくり丁商店街振興組合 桑島英樹理事長
6. 金賞 和歌山市立楠見小学校
プレゼンター アロチ商店街 西廣真治専務理事